

カラマツ国際シンポジウムに参加して

はじめに

カラマツに関する初めての国際シンポジウムが、アメリカ合衆国モンタナ州のカナダ国境に近い田舎町（ホワイトフィッシュ）で、昨年の10月5日～12日まで開かれ、日本カラマツの紹介を兼ねて同シンポジウムに出席してきました。さらに、その後4日ばかりかけてカナダ西部地域（BC州）の林業・林産業を見る機会を得ましたので、あわせてその概要を記してみたいと思います。

このシンポジウムは、国際林業試験研究機関連合（IUFRO）の中の「カラマツに関する研究部門」とアメリカ及びカナダの林野庁や大学等の試験研究機関との共催によるもので、シンポジウムでは、世界各地に分布するカラマツ林の生態、経営、保全等に関する諸問題を討議し、将来に役立てようとするものです。

1. シンポジウムの要約

シンポジウムは世界各地に生育するカラマツの紹介（9名の招待者）、地元セイブカラマツに関する生理、生態、修景及び林業経営、世界からの研究者によるカラマツに関する研究発表（4部門70編）、及び現地視察等が主なもので、期間中10月祭や世界のカラマツ見本園植樹等盛りだくさんの行事が行われました。世界のカラマツ紹介の集約をしますと次のとおりです。

- ①カラマツは耐寒性のある樹種であり、北半球にとって重要な樹種である。
- ②カラマツは、火災跡地、崩壊地及び永久凍土地等に最初に生育するパイオニア樹種である。
- ③カラマツの落葉病、先枯れ病、寄生植物等による被害発生は、各地に共通してみられ、その防除は重要課題である。
- ④カラマツ材の輸入が増えるにともない輸入地域になかった病害虫等の発生の危険性が懸念されている。

2. 北米のカラマツとカラマツ林の経営

(1) 北米のカラマツ分布

この地域は林野火災の発生が多い地域ですが、カラマツは樹皮が厚く火災に強いいため火災跡地

では純林を構成する場合があります。

北米に分布するカラマツはセイブカラマツ、アメリカカラマツ（タマラック）及びタカネカラマツの3種があります。セイブカラマツは世界のカラマツの中で最も寿命の長い樹種で、例えば、直径230 cm以上900年の樹木が存在し、北米では重要な樹種となっています。（写真-1）

アメリカカラマツは排水のよくない所や乾燥地でもよく生育しますが、成長にむらがあることなどから、あ



写真-1 セイブカラマツ林
（アメリカ）

まり重要な造林樹種とはなっていないようです。筆者らは写真のような湿地に案内され、そんなところでも成長のよいのに驚きました。（写真-2及び図参照）

タカネカラマツはロッキー山脈の高海拔地のツンドラ地帯（標高2000 m～2400 m）に生育しますが成長は悪く、この樹種も重要な造林樹種とはなっていないようです。（写真-3及び図参照）



写真-2
湿地に生育する
アメリカカラマツ
（カナダ）



写真-3 カナディアンロッキーと森林限界に生育する
タカネカラマツ（カナダ）

(2) 総合的なカラマツ林経営

カラマツはその黄葉、芽吹き等の美しさが周辺の修景に及ぼす影響などからも大切な樹種となっており、修景的な立場からの純林造成や他の樹種との混交林造成もなされています。

森林に生息する動物保護の立場からは、大鹿(エルク)、キツキキなどに対して、皆伐はできるだけ小面積にし、林道密度をできる限り低く抑え、除草剤の使用を控え機械作業化に取り組む等、環境にも配慮された経営が行われています。

(3) 生産コスト低減の取り組み

苗木生産から伐採までの生産コストの低減への取り組みが行われ、発泡スチロール・ポットによる苗木生産により、床替え、除草、根切り等の省力化と、可能な限り母樹を残した天然更新による再造林、成長初期の高密度による枝の自然枯れ上がりを期待した枝打ちの省力化等が行われています。(写真-4)

また、材の搬出コストの低減については、大型搬出機械の導入による全幹集材(1回の搬出量の増大化、林内での玉切り作業の省略化)とトラック運材の組合せ及び製材工場での用途別玉切りを採用しています。(写真-5)

(4) カラマツ材の利用

カラマツ材の利用についてみますと、カラマツ材は、集成材、トラス材、ツーバイフォー材として広く利用されていますが、乾燥技術につ

いては問題があると聞きました。アメリカでは、カラマツ製材品が年間5億ドルも生産されており重要な樹種となっています。

おわりに

シンポジウムの期間を通じて大変うれしく感じたことは、日本カラマツが世界的に優れた樹種であるとの認識があることです。そのため、何かと言えば日本からの出席者ということで様々な行事に引き出されました。また、わが国のカラマツ研究者は少ないけれども、世界的レベルでは研究者も多く、したがって研究成果の多いのには驚きました。そんなことから、国際的なカラマツに関する情報交換の必要性を痛感し、シンポジウムの最終日にそのことを述べたところ、会場の皆さんも同感しておられました。最後に、北米地域にも成長や形質上、日本カラマツと比べ決して劣らないカラマツ(セイブカラマツ)があることも記しておかねばなりません。(木材部 武井)



写真-4 枝の枯れ上がったセイブカラマツ林(アメリカ)

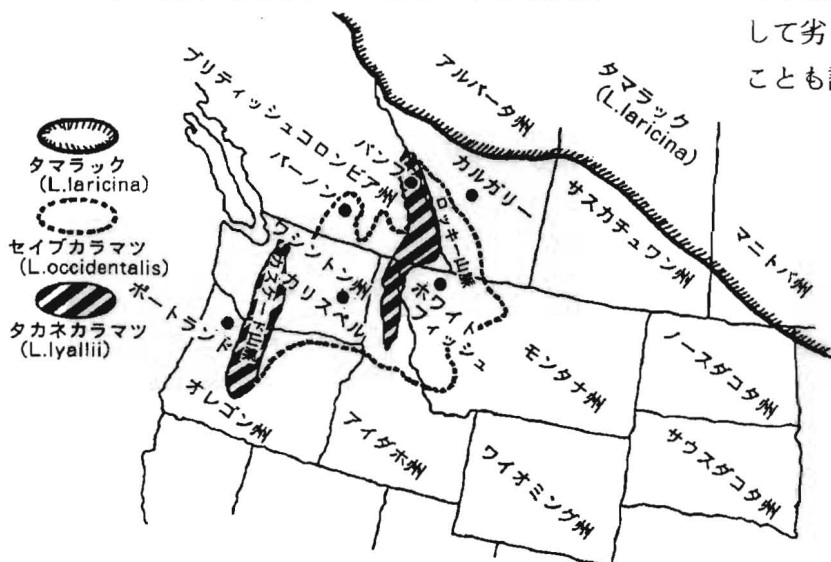


図 北米におけるカラマツの分布



写真-5 製材工場における全幹材